

四月の天象

太陽

太陽は月始めは白羊宮に在り。21日から金牛宮に侵入する

日	赤經	赤緯	星座	視直經	北極の傾	赤の位置
1	0時40分	北 4度16分	うた	32分 4秒	西へ26度	北へ 7度
11	1 16	8 3	うた	31 58	27	6
21	1 53	11 37	ひつじ	31 53	26	5

太陽の自轉軸は今月最も西へ傾く、赤道の位置は北へ十分行つて、南極の方を吾人に見せてゐるが、今後は徐々に視中心の方へ下つて来る。

月

月の相	時刻	星座	視直經
下弦	2日午後 4時29分 0秒	いて	29分42秒
新月	10 午前 5 32 36	うた	32 16
上月	16 午後11 9 12	かに	32 12
満月	24 午前 6 47 24	おさめ	30 14
遠地點通過	1 午前10 12	へびつかひ	29 36
近地點通過	13 午前 6 30	うし	32 42
遠地點通過	29 午前 4 0	いて	29 33

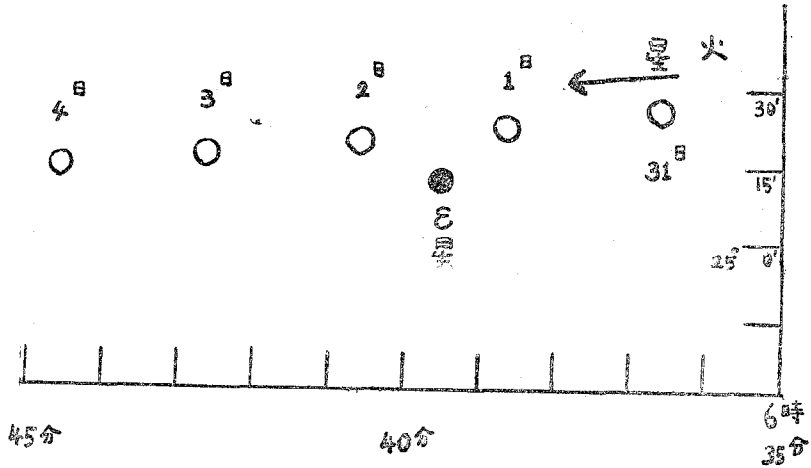
今月は遠地點を二回通過する。1日早々午後5時に土星と出會つてその南側を通過する。其後暫らくは遊星のない處を通つてゐるが、9日午前7時に天王星の南側を通過するに、直ちに又水星の南を同日午前11時に通過する。11日午前3時金星の南を通るに、續いて12日午前1時に木星に出會ふ。今月も亦随分木星の近くを通るのであるが、先月同様日本から見えない。其後16日午前5時火星の北側を通り、19午前5時海王星の北側を通り過ぎるに、29日午前0時に再び木星と出會ふ。そして其の南を通過して今月の遊星歴訪を終る。

黄道光

可成り弱い光となつたがまだまだ十分觀測は出来る。注意せられよ。

火星

最早や、火星の表面観望の時期ではなくなつたけれど、今月初めには「ふたご」座エプ星と非常に接近するので、一寸面白い景色である。圖は毎日午前九時の位置を示してあるので、圖からも見當が付く様に、最も接近するのは、丁度、今月1日の午後9時である。しかも其の時、火星は殆んど天頂に近い従つて、観望にはもつてこの時刻である。



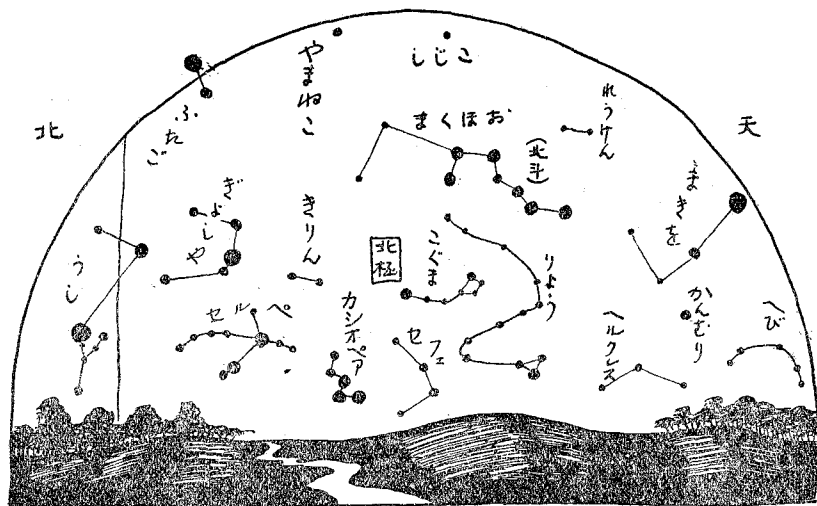
火星と「ふたご」座エプ星との接近

1日午後9時には兩星間の距離は角度で11分半程になる。其の時の火星の視直徑は約7秒。光度は正1等であり、エプ星の光度は3等で、色は稍赤味を帯びた黄色ではあるが、火星の其れには及ばない。

又、此の現象と同じ様に、海王星が今月12日にレグルス星へ接近する事が起るが、これは前月號に詳記したから略す。

四月にはあまり目立つた流星群はないが、20日前後に琴座のがある。之は近年餘り、いちゞるしくはないが、嘗つて、大流星雨となつて現はれた事も屢々あるので、矢張り毎年、其頃には注意を怠つてはならない。

對日照は今月が最も見やすい。云ふのは丁度、出現する位置が「おこめ」座で、星の少ない所に當るので、淡い光でも認められるわけであるから。



恒 星 界

日一日ミ麥も延びて、上げ雲雀は高く囀すり、菜の花には胡蝶たはむれる。春霞棚引く野山を暖かに包んだ陽光が、やがて靜かに西へ沈むさ、其處には地上の景色にもまして、のぎかな春の星座のつぎひが柔らかな光を天一ぱいに擴けてゐる。

銀河が西の空に傾いて、冬の星座のオリオンや「おほいぬ」が西山に低く懸つて「左様なら」を告げる頃、東の方からは「へび」やヘルクレスが顔を出して、「今晚は」ミ挨拶してゐる。「ふたご」「かに」「しし」「おさめ」等の春の代表者は、頭を並べて黃道に列する。殊に、全天の主人顔なる「しし」の α 星に、光度9等の海王星が、今月、最も接近するのは春らしい景色の一つである。「おさめ」の南には、愛らしい「からす」、又、其れを脊にのせた「うみへび」が蜿々たる全身を横へてゐる。北でも「りゅう」の長い身體が北極星を半ばこり巻き、其の近くには「おほくま」の北斗が高く懸つて、星に馴れない人々でも、北極を探すのは容易であらう。北の地平線に近くセフェ、カシオペア、ペルセ等おちて了つたが、其の代り、「まきを」「きたかむり」等が東に高い。

